

【特別活動】

1 特別活動における課題

- 各活動において身に付けるべき資質・能力は何なのか、どのような学習過程を経ることにより資質・能力の向上につながるのかということが必ずしも意識されないまま指導が行われてきた実態も見られる。
- 各活動の内容や指導のプロセスについて構造的な整理が必ずしもなされておらず、各活動等の関係性や意義、役割の整理が十分でないまま実践が行われてきたという実態も見られる。

【幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について 平成 28 年 12 月 中央教育審議会（答申）】

2 特別活動に求められるもの

- 社会参画の意識の低さが課題となる中で、自治的能力を育むことがこれまで以上に求められていること。
- キャリア教育を学校教育全体で進めていく中で特別活動が果たす役割への期待も大きいこと。
- 防災を含む安全教育、体験活動など、社会の変化や要請も視野に入れ、各教科等の学習と関連付けながら、特別活動において育成を目指す資質・能力を示す必要があること。
- 特別活動は、教育課程全体の中で、特別活動の各活動において資質・能力を育む役割だけでなく、学級活動を通じて学級経営の充実が図られ、学びに向かう学習集団を形成することや、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を特別活動の中で実践的な文脈で用いることによって、各教科におけるより「主体的・対話的で深い学び」の実現に寄与する役割や、教育課程外も含め学級・学校文化の形成等を通じて学校全体の目標の実現につなげていく役割を担っており、これらをバランスよく果たすこと。

【幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について 平成 28 年 12 月 中央教育審議会（答申）】

3 学習指導要領の主な改善点について

小学校

- ・ 小学校の学級活動に「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」を設け、キャリア教育の視点からの小・中・高等学校のつながりが明確にされた。
- ・ 総則において、特別活動が学校教育全体を通して行うキャリア教育の要となることが示されたことを踏まえ、キャリア教育に関わる様々な活動に関して、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこととされた。また、その際、児童が見通しを立てたり振り返ったりするための教材等を活用することとされた。
- ・ 小学校では、児童会活動の運営や計画は主として高学年の児童が行うこととしつつ、児童会活動には、学校の全児童が主体的に参加できるよう配慮することが示された。また、児童会活動における異年齢集団交流等が重視された。

【小学校学習指導要領解説 特別活動編 平成 29 年 6 月 文部科学省】

中学校

- ・ 中学校において、与えられた課題ではなく学校生活における課題を自分たちで見いだして解決に向けて話し合う活動に、小学校の経験を生かして取り組むよう学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」の内容を重視する視点から、「(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」の項目が整理された。
- ・ 総則において、特別活動が学校教育全体を通して行うキャリア教育の要となることが示されたことを踏まえ、キャリア教育に関わる様々な活動に関して、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこととされた。また、その際、生徒が見通しを立てたり振り返ったりするための教材等を活用することとされた。
- ・ 生徒会活動の内容の(1)を「生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営」として、生徒が主体的に組織をつくることが明示された。また、生徒会活動においてボランティア活動等の社会参画を重視された。

【中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成 29 年 7 月 文部科学省】

高等学校

- ・ 主権者教育の視点として、多様な他者と協働しながら、地域の課題を自分事として捉えて主体的にその解決に関わり、社会に積極的に関わっていく力が今後ますます重要になる。ホームルーム活動における自治的能力を育成する様々な活動、生徒会における役員選挙や総会など、自治的な活動を実践的に学ぶ場面などについて、社会科や公民科との関連も図りつつ、その一層の充実を図ることが求められる。

【幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について 平成 28 年 12 月 中央教育審議会（答申）】